

地域課題に対応した成人力の育成と生涯学習施策

栗原 要子

(小山市教育委員会生涯学習課)

私は、30年余り小山市立中央図書館に司書として勤務した後、平成22年4月に小山市立中公民館なかに館長として異動した。図書館でビジネス支援や農業支援サービスなどの課題解決支援に取り組んできた経験と、公民館での地域の人々との交流の中から、公民館も図書館と同じように地域住民の課題解決を支援する役割があると実感した。

また、平成25年4月には小山市教育委員会生涯学習課長として赴任し、図書館、公民館、生涯学習課と社会教育機関に勤務した経験に基づき、今後の社会の変化を見据え、成人力の育成と生涯学習施策について提言したいと思う。

1. 小山市の概要

- キャッチフレーズ「夢と希望を現実に みんなで創る 誇れる小山」
- 栃木県南部の人口16万人を超える栃木県第2位の都市
- 伝統文化・立地利便性を最大限活用し、安全・安心で、住み良い、住み続けたいまち小山の実現を目指す。

栃木県小山市は、「水と緑と大地」の豊かな自然に恵まれ、人口は16万人を突破した県内第2位の都市として、めざましい発展を遂げている。首都圏に近いという恵まれた立地条件を背景に、工業都市として発展してきたが、

同時に、県内有数の農業地帯でもある。

2. 成人教育への取り組み状況

(1) 小山市立中央図書館の取り組み

① ビジネス支援バックアップ事業 平成17年度～

地域の情報拠点としての図書館の機能を生かし、起業・創業を目指す住民やビジネスチャンスを求める住民のために、ビジネス支援の推進を図り、新しい層の開拓と、ビジネスパーソン・地域のキーパーソンの育成や生き方支援を実施する。

● 「おやまビジネス支援連絡会」の運営

小山市におけるビジネス支援に関する情報交換を深め、ビジネス情報の共有化を図り、豊かな地域社会の形成に寄与するため、ビジネス支援サービスの開始当初に、「おやまビジネス支援連絡会」を設置した。図書館に事務局をおき、委員は、産業界・高等教育機関・その他教育機関の中から教育委員会が必要と認める者により組織されている。年2回の会議を開催し、ビジネス支援に関する情報を共有化し、助言・提案、連絡調整などを行い、関係機関等との業務協力ネットワークを構築している。

● 「ビジネス支援コーナー」の設置

図書館では、ビジネス関連図書や、企業のパフレット、求人案内のチラシなど、ビジネスに関連した各種印刷物を収集し、創業・起業を目指す人等へ地元のビジネス情報を積極的に提供している。地域のビジネス情報や新聞記事なども掲示している。平成19年度には、資料コーナーの拡大を図り、無料求人情報誌、新聞折込の求人広告、講座・セミナーのチラシなどは、利用者の関心も高く、特によく利用されている。また、パソコンルームが2室あり、デスクトップパソコン4台とノートパソコン2台を備え、有料データベース6種とインターネットが利用でき、最新のビジネス情報を提供している。

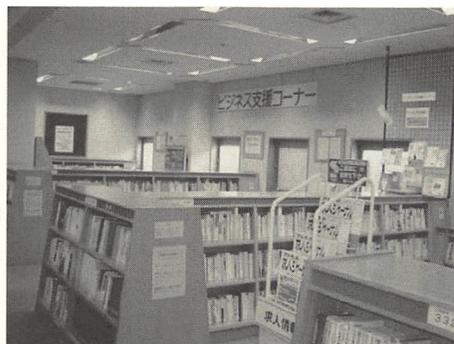


写真1 ビジネス支援コーナー

●ブックリストの作成

起業・特許・資格・再就職など、ビジネスに関連したテーマごとに、ブックリストを作成・配布しており、広く活用されている。

●「元気アップビジネスセミナー」の開催

起業・創業希望者向けのプログラムは、平成17年度から継続して開催している。専門知識を習得したり、スキルアップを望んだりする熱心な人が多く、受講生からこれまでに10人の起業家が誕生し、自分のお店や会社を立ち上げ、それぞれの道で活躍中である。



写真2 元気アップビジネスセミナー

●「発見！小山ゆかりの企業展」

小山市内で事業を展開している会社・企業の魅力を発信する展示場所として、館内の展示ケース・展示パネルを無料で開放し、1企業につき1か月間、会社の自慢の商品や技術をPRする機会として提供している。会社の知名度アップや、会社のオリジナル商品の広報などが主な目的で、地元のものづくり企業や、地元の食材を活用した食品製造会社などから申込みがあり、図書館来館者の注目を集めている。地元の優良企業へ就職したいと考えている人にも、情報提供の場となっている。

②農業支援サービス事業 平成19年度～

小山の重要な産業である農業を視点に、団塊の世代の人たちをサポートするきっかけ作りやヒントになるように、地域に根ざした図書館サービスの充実と、ビジネスや農業の活性化および地域振興・発展に貢献する。

●「農業支援コーナー」・「おやまブランド特産品コーナー」の設置

「農業支援コーナー」では、農作物の育て方・栽培方法など、農業に役立つ図書館資料を置いている。

「おやまブランド特産品コーナー」では、おやまブランドに選定された特産品や小山の農業が一目でわかるパネルなどを展示している。また、関連記事を掲示し、農業関係機関のチラシ・パンフレットなども収集・配布している。



写真3 おやまブランド特産品コーナー

●ブックリストの作成

農業経営、堆肥や土づくり、有機栽培、最新の農業の動向などテーマ別に紹介し、利用者の関心を高めている。

●「農業ビジネス講座」の開催

農業ビジネスのさまざまな事例研究などを学ぶ講座を開催している。家庭菜園から農業への関心が高まった人や、将来農業にチャレンジしたい人などが受講し、好評を得ている。

●「農業なんでも相談室」の運営

農作物栽培や園芸に関する質問、家庭菜園や庭づくりでの疑問、就農相談、その他農業に関しての質問・相談に円滑に対応するため、栃木県下都賀農業振興事務所と小山農業協同組合から職員を派遣していただき、司書と連携して、質問・相談に対応している。年3回開設しており、相談は無料である。司書のみでは対応困難な相談については、各機関への引き継ぎをして、相談者の利便を図っている。

●HP「おやま地産地消ライブラリー」の管理・運営

ホームページ上で、小山の農作物や特産物の情報を一元的に把握できる「おやま地産地消ライブラリー」を公開している。小山の農業について、主な農作物とその収穫量、おやまブランドなどを紹介している。また、農業タイズや農作物を利用した料理なども紹介しており、小・中学生の総合学習から今日の献立まで、小山ならではの情報を全国発信している。

③「困ったときは、図書館へ」

図書館のビジネス支援体制の確立は、地域ビジネスの活性化に貢献し、また起業意欲に燃えた多数のビジネスパーソンを生み出すための重要な手段であると考えている。

農業支援サービス事業では、生産者や消費者への情報提供はもちろんのこと、団塊の世代の能力活用や新規就農および再チャレンジ、グリーンツーリズムの推進、おやまブランドの創生・全国発信にも大いに役立ったと思う。

図書館が、農業活性化の「きっかけの場」としての役割を果たし、工業都市でありながら、豊かな農業資源を持つ、小山市ならではの新しいビジネス支援のスタイルとして、新たなサービスを創造し、図書館界だけでなく、農

業の分野にも貢献できたと考えている。

今後も地域における情報拠点として、地域の課題解決支援機能の充実を図っていき、「困ったときは、図書館へ」を合言葉にして、図書館が地域や市民にとって役に立つ、愛される図書館として、人と関係機関のネットワークの構築に努め、存在意義を確立していくことを目指している。

(2) 小山市立中公民館の取り組み

小山市の9つの地区公民館は、戸籍事務をはじめ、行政事務を取り扱う出張所も兼ね、公民館事業は、講座・学級の形態を中心とした趣味・教養・学習機会の提供が主流となっている。中地区は、小山市の中では高齢化率は一番であるが、公民館活動に積極的に参加する高齢者が多く、活発な公民館活動が行われているが、赴任した当初、私には、公民館の事業内容と地域の課題との結びつきが少し薄いように感じられた。

しかし、平成23年3月11日の東日本大震災を機に、地域住民と公民館との関係に変化が生じた。防災・防犯・安全に対し、住民が自分の住んでいる地域の状況を真剣に考えられるようになり、「災害時の対応を自治会で相談しよう」、「災害マップを作りたい」など、住民が公民館になんでも相談に来るようになったのである。

大雨や台風の時には、地元の消防団や自主防災会はもちろん、自ら地区内の巡回をしていた他の住民によって、被害状況が逐一公民館に報告された。浸水の心配があるため自主避難した方がよい住民がいるとの報告を受け、公民館は、市役所の関係各課・消防署・駐在所などと連携し、避難者を急きょ、公民館で受け入れることになった。

この出来事から明らかなように、公民館が住民に対して、講座・学級による受身の学習を提供するだけでなく、住民・公民館が主体となって、積極的に地域の課題を把握し、協力して地域の課題解決に取り組んでいくようになった。

こうして、公民館は、住民や各種団体の活動を関係する行政部門につなぐパイプ役となり、コーディネートする存在へと変化し、地域の課題解決に積極的に関わるようになりつつある。公民館が、住民同士、そして住民と行政とを結ぶ、身近な行政相談窓口の機能を果たすようになってきたと言える。

思う。

①中地区わがまちげんき発掘事業 平成23年度

平成23年度から各地域において公民館を核とした地域の誇れる資源を発掘し、地域に埋もれていた宝を活用した地域の活性化を図るための活動を実施している。

②これからの小山の公民館 ー地域・住民の「核」として、役に立つー

今後は、公民館を拠点として、自治会単位で住民が地域の行政課題の解決過程に参画し、住民と行政が協働して地域の課題解決に取り組むことを支援するのが、公民館の新しい目標だと思う。そのためには、公民館が住民と行政をつなぐパイプ役となるだけでなく、住民が発見したまちづくりのための具体的な地域課題に関して、公民館がその課題について住民が学習する機会や場を、講座や学級会の開催を通して提供するという必要だと思う。

地域のまちづくりの中核施設として、地域の課題解決支援の充実を図っていき、住民に役に立つ、期待される公民館として、住民と行政、各種団体とのネットワークの構築に努め、公民館の存在意義を確立していくことを目指している。

3. 成人教育を実施する上での課題

(1) 少子高齢化と人口減少による地域コミュニティの消滅と弱体化

地域における人間関係の希薄化も進み、過疎化による集落の消滅や学校の統廃合により、コミュニティのさらなる弱体化が見られる。学びを通じて地域住民の絆をつくり、活力ある地域コミュニティを築いていく必要性があると思う。

(2) グローバル化、情報化の進展による地域課題の多様化と複雑化

異なる文化や習慣を持つ人々とのかかわりや、コミュニケーションの手段をスマートフォンなどの情報機器に依存するなど、地域課題が多様化、複雑

化し、課題を解決するために地域でどのように取り組んでいくのかが問われている。

4. 今後の生涯学習施策の方向性

生涯にわたって学び続ける地域生活の実現を目指す。

(1) 郷土への愛着

①子どもたちの地域への愛着を高め、地域の伝統や文化を体験する学習機会の充実

体験を積み重ねることが、地域への愛着や誇りを育み、地域の次代を担う人材を育てることにつながる。

②住民が地域の伝統や文化を再認識する学習活動への支援

大人自身が改めて地域の歴史や文化を学び、活動を実践することにより、「まちづくり」や「地域づくり」につながる。

(2) 自立への支援

①子どもたちの健やかな成長のための家庭教育支援

保護者に対する家庭教育に関する情報や学習機会の提供や、指導者の養成、家庭教育を支援する人材の育成が必要である。

②生活困難を抱える若者に対する学習機会の充実

新しいことを学ぶ機会、改めてさまざまなことを学び直す機会を提供し、自立へと向かうことを支援する。

③高齢者の学習活動への支援

地域の絆が強まることで、高齢者の孤立化を防ぐことにもつながる。

(3) 地域づくりにつなげる生涯学習

①「絆づくり」を促進する学習活動への支援

絆づくりの視点を、さまざまな学習機会に取り入れていく。

②「地域づくり」や「まちづくり」の視点を持った学習活動への支援

行政内での部局を越えた連携や、産業界および企業、高等教育機関との連携を図っていく。

成人力のひとつは「社会人としてのさまざまな場面や役割において、求められる能力を発揮できるかどうか」である。課題を見つけて考える力や知識や情報を活用して課題を解決する力など、さまざまな人や組織と出会い、新しい体験を重ね、必要に応じて協働する中で、人間として成熟し、豊かな経験に裏打ちされたあらゆる場面で前向きに生きる力こそが本当に期待される「成人力」だと思う。

参考文献

- 「今後の社会の変化に対応した県民の学習活動の支援の在り方について～自立・協働・愛着の視点による生涯学習の振興～」(答申)第11期栃木県生涯学習審議会, 平成27年3月
- 「小山市生涯学習推進計画OYAMAまなびーはぐくみプラン～学んで育む“ひと・まち・絆”～」小山市, 平成23年3月